



大学を卒業して二十年目を迎えました。東京での四年間が終わり、想像もできない京都の道場への準備で、期待と不安が入り交じった心境でした。この先ずっと丸坊主だと気付き、急いで金髪頭にして、周囲を驚かせました。それまで、カラーリングもパーマもしたことのない私の一世一代の冒険でした。少しでも不安を隠したかったです。良い思い出です。

映画空海に想いを寄せて

良啓

真言宗の開祖空海を題材にした映画が公開されています。若き空海が遣唐使の一員として唐の都長安に渡り、次々と起こる怪奇現象に立ち向かい、解決するというあらすじです。もちろん、小説ですからフィクションですが、史実も混ざっていて、誰もが楽しめる内容です。この入唐について面白い話があります。

当初、二十年と言う長期留学が空海に定められていましたが、師の恵果和尚に正統な後継者と認められ、密教を早く日本に広めたいと考え、二年で帰国します。この約束違反により、入京を禁止されますが、これ幸いと持参品を整理整頓し、その目録を朝廷に献上しました。恵果和尚は三代の皇帝に仕え、当時の中国仏教界の重鎮でした。その和尚の後継者ですから、伝授された教えはトップクラスの内容です。持参品も大唐を代表する絵師や仏師の作品ばかりです。この目録は、まだアジアの辺境であった日本にとって、かなりのインパクトを与えました。その後すぐに入京が許された空海は、無名の僧侶から京都の二大寺の一つである東寺を賜り、真言宗を開宗し、密教と言う新しい風を日本に定着させる事に尽力しました。

もし、朝廷との約束通り二十年間を唐で過ごしていたら、帰国してもこれほどの足跡は残せなかったのではないのでしょうか。ちなみに、この時の目録は「御請来目録」として国宝に指定されています。

身近にある仏教語④

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

未曾有（みぞう）

未曾有の事件、未曾有の天災などと悪い意味でかつてないことを表す言葉として使われておりますが、元々は奇跡という意味のサンスクリット語を漢訳した言葉で、仏様の功德や神秘をいまだかつてあら「未だ曾て有らず」と称賛する良い意味の仏教語でした。それが鎌倉時代には善悪両方の意味で使われるようになり、現在では悪い意味で使われることが多くなってしまいました。ちなみに漢訳したのは西遊記で有名な三蔵法師だと言われています。

にんにく

香りが強く、スタミナがつく食物としておなじみのにんにくですが、仏教用語の「忍辱」が由来と言われています。これは悪口や苦しみに耐え心を揺れ動かさないという意味です。実はお坊さんがにんにく、にらなど香りが強い五種の野菜を食べる事は、怒りや情欲が増す事につながり修行の妨げとなるとして禁止されてきました。にんにくを食べて力をつけたいお坊さんが匂いに耐え忍んで食べたという説と、力をつけたいが禁止されているので耐え忍び食べなかつたという二つの説があります。正反対の説で面白いですね。

皆さんはどちらだと思えますか？

